



薬の飲み方などを助言する薬剤師。国は身近な「かかりつけ薬局」の普及を目指している=1日、静岡市駿河区の石川薬局小鹿店

県内某局より親身に

健康相談、支援に力

Q かかりつけ薬局
自宅や職場の近くで健康相談に応じ、患者が飲んだ薬の情報を一元的に管理する調剤薬局。複数の病院で処方された薬を把握することで、飲み残しや重複を防ぐ。膨らみ続ける医療費を減らす狙いもあり、厚生労働省が普及を目指している。在宅患者に薬の服用の仕方を指導したり、24時間態勢で調剤に応じたりする役割も期待されている。

薬や健康状態で気になることがありますか。石川薬局（静岡市駿河区）は、日常的に訪れる患者との対話を重視する。4店舗で薬の名称や服用回数を記した「お薬手帳」を持参する人も多い。患者が薬剤師をかかりつけとして指定でき、20人の薬剤師が働き、

月、改訂された。地域に密着した「かかりつけ薬局」への報酬を手厚くしたのが特徴だ。「患者に寄り添い、医師との橋渡し役を担う薬剤師の役割が一段と重要になる」と県薬剤師会。県内の薬局は患者との接点を増やし、相談相手になつたり健康をサポートしたりしている。

特定の病院からの処方箋が集中している場合などに報酬が減額され、経営の見直しを迫られる可能性がある。患者の因い込みも激しくなりそうだ。県内

守る取り組みを進めた
い」と意気込む。在宅
患者の訪問活動にも力
を入れるという。

る制度が始まりた。歩く制度が踏まえ、健康相談などに一段と力を入れる。石川幸伸社長(60)は「薬を安心して飲んでもらうためには十分な説明が必要。継続的な相談相手になりたい」と話す。

る制度が始まったことに踏まえ、健康相談などに一段と力を入れられる。石川幸伸社長(60)は「薬を安心して飲んでもらうためには十分な説明が必要。継続的な相談相手になりたい」と話す。

めれば、県内の健康寿命を延ばすことにもつながる」と意義を強調する。

に複数の店舗を展開するドラッグストアの担当者は「地域の薬局を選ぶ人が増える可能性がある」と警戒感を強

める。
農薬剤師会の植兆満
常務理事(52)は「かか
りつけ薬局の機能を高
める。」と述べた。